

第23回市民ふれあいトークー地域力を活かすまちづくりー

日時 平成23年2月1日 18:30~20:00

場所 船穂公民館

要約版

《市長》

最初に最近の船穂地区の動き等について少しお話をさせていただきたいと思います。

1月21日に東京の三菱自工さんの本社に行きまして、船穂町のスイートピーの宣伝をいたしました。そして22、23日と東京の銀座で引き続きまして、スイートピーの宣伝を今回初めてさせていただきました。これまで2年ほど夏に銀座でマスカットをPRしておりましたわけですが、そこへ冬の時期のスイートピーの宣伝をぜひ倉敷市のイメージを高めるため、そして船穂のスイートピーだということを全国の方に知ってもらいたいということで持って行きました。そして1月の27日、スイートピーの「船穂町スイートピー記念日」の制定ということで、より一層船穂のスイートピーが注目を、倉敷市の船穂地区以外の方からの関心が非常に高まっているように思っております。

東京に行きました時の話を申し上げますと、船穂のスイートピー、岡山県のスイートピーが日本全国の中でもほしい今2番か3番目くらいの生産量ということでお話をしました所、そんなにたくさん作っているということを皆さんびっくりされていたと言いますか、倉敷市でできているということを知らない方が随分いらっしゃいました。これからスイートピーのイメージ、倉敷市のイメージを高く皆に持ってもらうようにPRを、また船穂のスイートピーは非常に価値の高い大切なものだと改めて再認識をしたのがこの1月の21、22、23日の辺りの東京での行事だったように思います。

船穂地区は特に倉敷市の中でも、マスカットオブアレキサンドリアを始めとする農業が非常に盛んな地区であります。先日の商工会の行事の中でもふなめしが非常に人気を博したということで、多く他の地区の方もいらっしゃって、船穂の魅力をこれまで以上に皆さんが認識して下さっているんじゃないかと思っています。そして船穂の農業後継者クラブの皆さんたちの頑張りが非常に大きなことだと思いますし、船穂の農業公社の堆肥センターを中心とする環境リサイクル型社会の行事でありますとか、JAさんが一生懸命頑張っておられます定年帰農塾等の面でも農業の分野に本当に倉敷市全般としても力を入れていかないといけない。その中の船穂地区の農業は本当にお手本になるものだと私は非常に思っております。

船穂地区の大きな事業として、柳井原の区画整理事業が今ほぼ最終の段階に近付いて来ているということで、一番最初から言えば平成3年に船穂の総合基本計画でその地区の計画が定められてから約20年だと思いますが、ここまで地域の皆さんのご尽力によって進んできております。あとは市の方でも保留地の今後のことについてちゃんと前に進むようにやっていきたいと思っております。

高梁川・小田川のことについては特に昨年、高梁川水系河川整備計画が国の方から発表されまして、高梁川・小田川全体の治水と安全のために、この柳井原の地区の小田川の付替えということが大きく発表されまして、地元の皆さんに今、国と一緒に説明をさせていただいている所です。もちろん川の付替えでございますので、高梁川の計画全体が進むのはもちろん何十年もかかるとは思いますが、その中で比較的早い時期に小田川の付替えの時期はやって来るとは思いますので、とにかく安全の面をしっかりとやら

うようにということを国の方にはしっかり申したいと思っております。それと船穂・真備の合併の協議の中での高梁川の新しい橋の工事に、今年平成23年度あたりからなっていくと思っております。今の所、平成27年度の完成に向けてやっていくということで工事を計画的に進めていきたいと思っております。

最後にもう一つ、船穂地区のコミュニティバスのことについて皆さんのご協力をいただきまして見直しを行って、再編を昨年4月から行っているわけでございます。一番便数の多い路線については結構よく乗っていただいている時間帯も多いと思うんですけども、まだまだ皆さんのお声を聞いて再編をしたんですけども、乗っていただく方がちょっと少ないのも現実でありますので、ぜひ地域に於かれましてPRをお願いしていきたいと思っております。

倉敷市全般としては今、倉敷駅の周辺のことを大きく変わりつつあります。倉敷駅ビルのホテルの撤退が昨年末にありました。また逆に今年の年末近くには駅の北にイトーヨーカ堂、三井のアウトレットモールが来るということで、これまで以上に県外市外から倉敷市内に多くの方がいらっしゃる機会が増えて来るのではないかと考えております。

一つその中で私どもが大きく期待をしているのは、美観地区を始めとする倉敷の観光地に人に来てもらうということもありますけれども、例えばイトーヨーカ堂での地元製品の取り扱いでありますとか、倉敷駅北のまだ名前はできてないんですが、大きな市の公園・広場を造る予定であります所を使いましたイベントでありますとか、私がぜひやっていきたいと思っているのは、例えばJAさんたちと協力をした農業の物産展のようなものをわれわれの公園として造る部分とアウトレットモールやイトーヨーカ堂さんとも協力をして、倉敷市は非常に自然の恵みが豊かな所だということを、美観地区辺りの所を中心とする「文化のまち倉敷」の部分だけではなくて、自然が非常に豊で美味しいものが採れる所だよと。もちろん児島の漁業の方の物産展何かもできればいいと思っているんですが、そういう所もあるまちだということを倉敷の駅の周辺から発信ができればいいなと考えているのが今の思いであります。今年の11月くらいにはオープンする予定になっていくと思いますので、事業者の皆さんたちとも協力をして、イオンも随分改革をされると伺っておりますし、地域からの発信には随分協力して下さっていると思いますので、ぜひともうまく連携しながらやっていければいいと思っているのが大きな所です。

船穂支所が10月12日にオープンいたしまして、新しい役場の方に行っていたことがあられる方はいらっしゃいますか。はい、ありがとうございます。前と比べていかがでしょうか。感想も少し伺いしたいと思っておりますけれども、武道館の方も新しくなっておりますので、ぜひとも使っていただけますように。4月には真備町の合併の協議の時に造ることになっております健康福祉のものも川辺の駅の近くにできます。そこには非常に使いやすい温水のプールもできる予定でございますので、玉島の皆さんも非常に期待をされていらっしゃると思いますので、ぜひ船穂地区の皆さんもご利用いただきたいと思っております。ぜひ船穂地区の皆さんの意見、市全体の観光とかPRの中でもっとこうしたらどうかとか、船穂の非常に優れております環境・農業の分野の改革とかももっとこういうことができないかというお話等、皆さんからいただけると大変ありがたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

《参加者Aさん》

船穂町は6千とちょっとの町ですから凄く過疎化が進んでいるような感じがしていいんです。私が民生委員をしている関係で、心の問題を扱う所がどこもないんです。支所に行きましても「玉島の福祉へ行って下さい」と言われるんです。高齢者の方が、わざわざ玉島にお願いに行くということは、私もタクシーでよく行くんですが困っています。私も2、3度玉島に行きましたけれども、ぜひ船穂支所の中に週一回でも来ていただくと大変ありがたいと思うんです。

それから隣の町のことですけれども、私は幼児教育にずっと携わっていましたがよく真備町の人も言われるんですけど、公立の真備のまきびの里保育園に各部屋にトイレがあったんですが、合併と同時にトイレが閉鎖されたんです。今バツ印が付いています。何の為に保育園が存続しているかという、やっぱり子どもが主体です。だから倉敷市内に合わせるのではなく、あるものはやっぱり子どものために活用していかないといいないと思うんです。私も長いこと幼児教育をしておりまして、そういうのを聞いたり見たりして、凄く気になりまして、私が危機管理とか何とかというので、ある保育園で乳児室にトイレを付けたんです。そしたら職員や保育士さんも、子どもも凄く助かり、トイレがあることで豊かな生活ができる実感しましたので、ぜひこれは皆一律に。倉敷市がないからお宅も閉鎖して下さいという閉鎖的なことでは良い子どもにならないと思います。よろしくお願い致します。

《市長》

心の問題と幼児教育についてのご意見をいただきましてありがとうございます。心の問題ですけれども、率直に申し上げましてまだまだ倉敷市全般にも遅れている部分があるかと思っているのが現状でございます。船穂地区や真備の保健福祉推進だけではなくて、全般に例えば心のケアが必要な方に対する対策がまだまだ岡山とか他の地区に比べて少ないのではないかとここ数年感じている所があります。すぐに各支所に心のケアの方を毎週派遣できるかという所まで繋がるかはまだ何とも言えないんですが、まず市全体としての心のケアが必要な方。今まずやっと思いこうと思っているのは、特に子どもの頃の心のケアが大事だと伺っておりますので、もちろん子どもから大人まで全部いっぺんにできればいいんですが、できれば子どもさんの頃の心のケアの所からまず力を入れていきたいとは考えています。

トイレが閉鎖されたことについては私も知らなかったんですが、まずなぜ閉鎖されたのかをよく調べてみたいと思います。調べさせていただいて考え方をまたお話申し上げたいと思います。今のは船穂地区のことだけじゃなくて倉敷市全般に関して言えることだと思いますので、幼児教育と心の問題についてはしっかり取り組みをしていきたいと思います。

《参加者Bさん》

船穂は堆肥センターで生ゴミの堆肥化をしており、支所でぼかしを販売して下さっていたんですが、もう支所では窓口で取り扱わないようになって聞いたんですが、なぜ取り扱っていただけないのか。私自身は堆肥センターからいただいているんですが、他の地域の方はぼかしがないと処理できないんです。私の考えとしては、玉島支所とか本庁にも置いていただいた方がゴミの減量化には凄く役立つと思うんです。バケツも結構よその地域の方も良いからということで、買って帰られているんです。11月かに姉が支所でぼかしを

買ったときに、「もう取り扱いしません」と言われて困っているんです。どのようにお考えでしょうか。

《市長》

農業公社ですね。ほかにも堆肥センターの方で作っているわけですね。支所で販売をする時には一応農業公社は市とは別の組織にはなるので、そこから委託を受けて販売をしないといけないと思うんですけど、そういう仕組みに今なってないのかも知れないと思ったんですが、今日支所長が都合で来れなくて申し訳ないんですが。支所で販売しているのは今ほかしだけですか。

《参加者Bさん》

活性液も扱っていただいておりますが、両方駄目となったようです。お金の問題があるから駄目なのか、それとも他の問題なんでしょうか。

《市長》

他の支所でも例えば福祉の用具を取り扱ってもらいたいと依頼をされるんですけど、できるものの方が確か少ないと思うんです。それで何かお金の取り扱いと委託関係の分で、そういう話になっているのかも知れませんが、訳を聞いてみます。もし支所で取り扱えなくなった場合にはどこか別の好ましい場所はありますか。例えば農業公社がありますよね。

《参加者Bさん》

農業公社は農協の2階にあるんですが、分かりにくいと思うんです。

《市長》

農協の1階の方では。例えばそういう所に。

《参加者Bさん》

多分農協で扱っていただくとなると、手数料が発生すると思うんですが。

《市長》

市の方で公社から受けるにしても何かしらの委託関係がないとできないと思うんです。そうじゃないと何でも支所の方で依頼を受けて「販売できます」となるのも、なかなか「他の団体は駄目なんです」とはいかなくなるので、その辺りが問題じゃないかと思うんですが、よく検討してみます。もし出来ない場合でも他に方法がないかということも含めて検討できればいいと思いました。

堆肥センターのことで報告を受けているんですが、最近全国各地から船穂の堆肥事業が素晴らしいということで見学に来られまして、見学の成果を基にして自分の地区にも随分作られるようになりまして、農業公社の堆肥のペレットが売れる量が減ってきていまして、非常に今困っております。それを当面の対策としては、市でのいろいろな緑の事業等であるとか、今市の学校園の芝生化をしていますので、そういう所の土に混ぜる肥料とかに使

って、使った所からは非常に生育が良かったという報告が去年の夏も来ていますので、そういう部分をしっかり言ってもっと売りに上げたいと思っているんです。ただ他の地域でもだんだんそういうのが良いと広まってきて自分で施設を設けられる所ができて来ているので日本全体としてはいいと思うんですが、船穂の堆肥センターとしては困っているのが現状でございますが、何かいい販売とかもっとアイデアがないものかと思います。

《参加者Cさん》

和気の方で民間か三セクか企業元が分からないんですけども、堆肥ではなく人間のし尿を処理し、小豆大に固形肥料化して「人糞のペレット」というものを20キロを一袋にして、ホームセンターのタイムさんとタイアップして販売しています。私も以前向こうに住んでいたのですぐ買えたんですけど、こっちはエリア外で当該のホームセンターがなく、探してなかったのでもわざわざ赤磐まで買いに戻りました。そういう形でこちらの地元のJAさん関係がやって・・・。

《市長》

販売ルートをもっと探した方がいいとは私も思います。

《参加者Cさん》

ホームセンターか、いろいろ関係があると思うので、特に農業器具を扱っている所とかと提携すればいくらかマージンはかかるけれども、販売にぐんと広まる気がします。

《市長》

ぜひ知り合いの良い伝手があったら教えていただきたいと思います。

《参加者Dさん》

「吉備の真備杯くらしき囲碁大会」には矢掛や児島地区の方の小学生が、だんだん参加されています。船穂地区ではまだそこまで行っていません。関心がある方もいると思うんですけど。私もコンタクトを一回くらい取ったことがあるんですけど。先生方になさる方があればいいんですが、市長さんのアイデアとか何か良い提案がありましたら、子どもたちに働きかけていかないといけないと思うんです。各地へ行くと小学生が囲碁大会にどんどん参加しているんです。船穂ではまだそこまでは全然行っていません。これから勉強しなくちゃいけないんです。だから市長さんの力を何か提案なりしていただきたいのがお願いです。

《市長》

今、Dさんが言われたのは、船穂・真備地区の合併をしてもらった後に計画を始めたいんですけど、それぞれの地区の良い所をぜひ他の地区にも知ってもらいたいということで、真備の地区は竹とかもちろんあるんですけど吉備の真備さんが出られたということ、それから金田一耕助さんが生まれた土地ということで、そこに焦点を当てた行事を何回かやってきました。それで、吉備の真備さんが中国から日本に囲碁を持って来られた囲碁の伝来の方なので、囲碁大会を始めることにしまして、「倉敷市長杯」にしようか少し迷った

んですけど、顕彰すべきなのは吉備の真備さんなので「吉備の真備杯くらしき囲碁大会」と名前をしまして、この前マービーふれあいセンターで行いました。1回目だったんですけど、二百何十人くらい児島の方の地区からもたくさんいらっやって、皆さんからは「倉敷市は大山康晴名人の出身地なのでこれまで将棋ばかりに力を入れていたけども、今度から囲碁の方も吉備の真備さんの所が合併されたので力を入れてくれることになったので嬉しいです」と囲碁の愛好の方から言われまして非常に嬉しかったですけど、船穂町ではあんまりまだ囲碁は・・・。

《参加者Dさん》

囲碁大会は町内では年に2回やっているんです。ここの公民館にも講座とかあるんですけど、地元の子どもたちを育てていかないといけないと思うんです。それがお願いします。

《市長》

囲碁の方ももっと力を。この中で囲碁をされる方どのくらいいらっやいますか。

あまりいらっやらないですね。将棋の方はどうですか。

将棋の方がちょっとだけ多いですかね。文化・芸術の日本の非常に重要な所だと思いますので、もっと両方とも振興するように頑張ります。

《参加者Eさん》

愛育委員をしておりますが、愛育委員会は自主活動として3つしています。その中に心の問題のある方の会を毎月公民館でしております。そちらに該当で会員になられて毎月、当事者の人たちと一緒に過ごせる方だったら来ていただければよろしいし、玉島保健推進室の方が船穂地区の担当になっていきますので、そちらに相談されてその会に入れるかを相談していただければと思っております。よろしくをお願いします。

《市長》

特に地元の愛育委員さんには地域の福祉のことについて大変ご尽力いただいておりますので、本当に心から感謝を申し上げます。

《参加者Fさん》

今現在建設中の玉島の交流センターのこれからの運営ですね。内容が指定管理者にお任せするのか公民館の名前が残るのか確認したいのと、今玉島の港周辺の水門の所で工事されておりますけども、私もガイド協会の理事をします関係で羽黒山の下の方に空き店舗がいっぱいあるのを市の方で借りて休憩所みたいなものを設けてもらえるか。その2点をご質問したいんですけど。

《市長》

玉島の市民交流センターは一年後くらいの来年の24年の4月からオープンできるように今工事しております。指定管理者に出すかどうかまだ議会で発表したかよく覚えてないんですけど、全体の方向としては児島の市民交流センターも指定管理に今出していますので、玉島の方もそういう方向にだいたいなると思っております。

《参加者Fさん》

今の玉島の文化センターが指定管理者になってますよね。そうすると貸館が有料になると思うんです。公民館の名が付いて今無料で講座やグループ会の生涯学習の場所なので、私も今玉島公民館のグループ会の副会長をしているんですけど、できれば公民館の名前を残して市の職員が勤められて無料開放して下さるような、公民館の名前が消えたら有料になるんじゃないかという不安が・・・。

《市長》

なるほどですね。まだそこまで検討が進んでいなくて条例もできておりませんが、そういうお話も頂いたことも、よく踏まえて検討したいと思います。

《参加者Gさん》

公民館は全部が無料ではなく有料です。ただ登録されて1年以上実績があると認めたものについては月に2回だけ無料です。

《市長》

よくこれまでのことも踏まえて検討したいと思います。

《参加者Hさん》

広報紙と一緒にくる市議会議録ですが、僕も市議会によく傍聴席で聴くんです。紙面の関係でたくさん載せられないんでしょうけど、私たちの地区は以前は市長さんと同じように市議会議員さんが議員活動報告を時々してくれていたんです。忙しいから最近市会議員さんもしなくなって唯一、広報に載っている議事録をチラッと見るんですけど、あれだと市長と市会議員さんのやり取りのほんのごく一部しか載っていないので、物足りない気がするんです。この市民ふれあいトークでもインターネットで2、3ヶ月遅れに出ているのを楽しみによく見ているんですけど、同じように市会議員の人ももっと紙面を増やしてもらうか何か他に市会議員の活動を載せてもらおうと助かるんです。

2つ目は音楽とスポーツのことです。私は野球が好きで、今日からプロ野球がキャンペーンして沖縄へ12球団の内9チームが行って、わが倉敷市の楽天の星野さんの顔も出てきましたので、春のキャンプは無理だと思うんですけど、せめて秋のキャンプぐらいでマスカット球場に星野楽天に何とか来ていただけるように大変だと思うんですけど、市長さんの方からしていただいて。星野さんも今忙しいからそれどころじゃないと思うんですけど、半年くらいかけて市長の力でぜひマスカット球場へ。ハンカチ王子と対戦できるようにお願いしたいと思います。

それと音楽のことです。これから3月、4月で倉敷は倉敷音楽祭等の行事があるんですけど、以前チボリ公園があった時にメジャーデビューするちょっと前のアンジェラアキさんが来たんですけど、最近をよくテレビに出るし若い人に結構人気があるので、プロダクションの関係があって難しいかも知れないですけど、せっかく市民公園、ヨーカ堂、アウトレットもできるんですから。アンジェラアキさんは倉敷に縁がある人みたいなので、市長にお願いして引っ張ってもらえば非常に市民が喜ぶんじゃないか、市民の公園もぐっと

活力が出るんじゃないかと思いたすので、よろしくお願ひします。

《市長》

まず市議会のやり取りがホームページじゃなくて広報紙の間に何ヶ月かにいっぺん挟まって「誰議員さんがこう言って私がこう答えました」というのが出るんですが、やっぱり紙面の都合であまり多くは書かれないうんですけど、市役所のホームページにはこれも何ヶ月か後に確か掲載されております。

市議会のホームページで何ヶ月か遅れで、割と細かく載っていたと思いたす。

スポーツと音楽について、楽天のキャンプについては私もぜひ誘致したいと思っております。星野監督には楽天の監督になる前からもちろんすでに伝えてありまして、どこかの監督になったら必ずキャンプを持ってきてもらいたいと言っております。なっただ後にお会いたした時にも伝えてありまして、星野監督としてはその思ひはもちろん持ったださっていうんですが、実際のキャンプになると球団関係者の方が例えばどこへ泊まるとか、どういっう条件でできるとかいろいろ細かいことがあるみたいで、県の中のプロ野球の誘致の会長である知事の方にも意向を言って、知事がまず代表でもちろん楽天も、楽天以外の所も含めて今いろいろアタックをして下さっていう所です。その大きな候補に楽天はもちろんなっただやっておりますし、私も重ねて伝えておりますし、ぜひマー君とハンカチ王子の対戦を私もマスカットで見たいと思っております。

市民公園の倉敷駅の北の公園ではまだ検討中ですけども、さっきも農業イベント等でそういうのができるようなことも言っただんですが、音楽とかもちょっとした芝生には多分していく予定になっと思っうんです。ただ今からやっても芝生なので11月のオープンの時には生えてないんじゃないかと思っていまして、ちょっと茶色かも知れないので難しいんですが、市民公園でイベントみたいなものもできるような、ステージみたいなものとか多くの人が見渡せるような造りにできればいいなと思っておりますので、もしアンジェラアキさんとかに来てもらえるようなイベントができればいいなと思っました。

《参加者Iさん》

今さっき市長さん高梁川河川整備計画と共有地の開発の話がされましたけれども、高梁川の河川整備計画につきましては、20年の1月19日に最初の説明会がありまして、3年計画して去年の10月14日に策定されたんですけども、この整備計画の中で一番大きな工事の比重を占めるのは小田川の合流点付替工事なんです。この工事といっますと、柳井原の耕作地は殆どなくなることに、柳井原の貯水池は小田川の下流領域になるわけです。これによって柳井原の耕作している方々の生活維持ができなくなる。また貯水池も自然の貯水池として約100年経っつんですけど、われわれ地域の人は親しみを持っただ生活をされてきています。この耕作地が完全になくなるということで、船穂地区はマスカット・スイートピーの生産地、ブランドです。柳井原もダイコン・ニンジンブランドとして地域の人が誇りを持っただ生活して来られているんです。さっき市長さん農業を大切にすると言われていた中でショックを感じたんですけども、われわれ地域としても金時ニンジンもとよりダイコンは誇りを持っただ生産されているんです。整備計画も策定されて、先月の15日に国の方から説明がありまして環境調査等で2、3年かかるということで、地域の人にとっては今まで誇りを持っただ生活していた所を地域のコミュニティの、生活活力とか

を完全に奪われ精神的に打撃を受けるんです。「われわれは小田川水域の犠牲になるだけであって、柳井原地区には何にもいい所はないんだ」と地域の人ををよく耳にするんですけど、そういう感じを払拭するようなフォローアップを倉敷市として行政の方からもしていただきたいんです。

《市長》

とにかく倉敷市にとりまして、高梁川水系整備計画は非常に重要なものであります。さっき安全のことばかり申しまして、安全は必ず必要でありますけれども、今の生活自然環境が大きく変わる所についてのフォローアップといいますか、そこについてはもちろん市も県も一緒になって関係していくわけですので、県を通じて国の方へ意見を市は言うんですけど、そこでも一番に言っているのは生活環境と自然環境が大きく変わるので、その点に一番配慮してもらいたいと言っておりますし、もちろんこれからもずっと言っていきたいと思っております。おっしゃることごもっともだとももちろん思っておりますし、市の代表としてその点をしっかりとこれからも言っていくつもりでありますので、また今後ともご意見よろしく願いいたします。

金時ニンジンさっきこの会に出る前に金時ニンジンジュースを差し入れていただきまして、気合を入れてふれあいトークに臨んだんですが、飲んだばかりで言うのを忘れてしまいました。すみません。金時ニンジンは正月料理に欠かせないものでございます。ダイコン、連島のゴボウ、レンコンについてもやっぱり皆さんからそう言っていただいております。本当に私は高梁川水系は耕作に適している場所が非常に多いと思います。それが今後もうまく前に進んでいけるように思っております。

《参加者Jさん》

「地域を活かす」ということで私の持論ですけども「倉敷市を良くしよう」という、では倉敷市とは何か。岡山県とは何か。日本とは何か。私も又串地区に住んでおりますけど、又串も本当に大好きです。船穂地区も大好きですし、倉敷、岡山県、日本、もちろん好きです。それが一番やっぱり良くなって欲しいというのが私の思いなんです。そのためには何をすればいいのか私の持論は、やっぱり住んでいる人が気持ち良く暮せるまちづくりということです。われわれ又串地区約103軒、6町内に分かれていまして、20軒前後。やっぱり各地区一緒だと思んですけど、国の末端が町内会ですから末端なんです。その町内会が気持ち良く暮せる町内会になることが倉敷市、ひいては日本が良くなることだと思っております。今末端の組織が非常に崩れようとしています。今船穂町はまだまだ本当に田舎です。市長は「お大師講」を知っていますか。われわれの地区にもまだ「お大師講」という講が残っております。各町内、各家を回って行くんですけど、私たちの町内で活動をする中で57歳になる私らが一番若手です。それが本当に長く続いて欲しいんですけども、いつまで続くのかという危機にある状態です。私の持論は日本、倉敷を良くするためには何が必要かというのは、「田舎組織を学べ」ということです。「田舎組織とは」というのを本当に考えていくと、物凄いうっとおしい所も、物凄い合理的な所もあるんです。日本が何百年かけて作ってきた田舎組織を私は今後どう市や日本に取り入れるかを見習って進めていくのが一番だと思っております。私は今岡山で運送会社をやっておりますけども、田舎組織を会社に取り込もうと何十年もやって参りまして、非常に今素晴らしい会社が私は

できていると思います。やっぱり田舎組織は「思いやりのある人間関係のできる組織」ということで、本当に合理的なというのは、組織を維持するのは大変です。やっぱり若い人を育てないと駄目なんです。今の行政、「福祉」といったらすぐ障がいの方とかの方に行ってしまうと、それは当然大切なんですけど。今一番肝心の次代を担う青年層の福祉がないんです。ここに一番福祉が必要なんじゃないかと。われわれ若い時には船穂町にも青年団ありました。壮年になると消防団がありました。私ども青年活動をしましたし、いろんなこともやってきました。そこが一番肝心で、次の世代を育てる所がないのです。

《市長》

若者に対する福祉というのは青年団としての活動にみんなぜひ参加をしたり・・・。

《参加者Jさん》

若者がそう思うようにしていく、またバックアップをしていかないといけませんし。今本当に青年活動ができる場がないんです。私が知っている限りでは、ロータリークラブの下のローターアクトクラブでは今青年活動やっていますよね。私も昔参加していましたが、今地域での青年活動は殆どないでしょうね。若者もしないということもありますけど。そういう所に目を向けて、一番末端の町内会の集まりが倉敷市、日本になっているわけですから、そこが元気良くなる。今は私らが町内の役をさせていただいても行政と町の関係は「行政が配り物をさせるために我々がいるんじゃないか。我々の町内を助けるために行政があるのではなく逆じゃないの」と多々感じます。その辺を見直していただくとありがたいと思います。末端を活発にしていくためにはどうすればいいかを一生懸命考えていただくとありがたいと思いました。

《市長》

倉敷地区の方とかも最近非常に住宅地化して人口が増えている地区は、やっぱり町内会の組織がなかなかできないとか、あまり近所付き合いしない所が多い所ほど、例えば子どもの見守りがあまりそういう組織がないのでうまく進まなかったり、不審者が出たりということもあると聞いていますので、さっきの地域の繋がりというのは本当に国の基本ですよ。今言われる通りで一番最初の所だと思います。船穂地区で私は元気だと思っておりますのは、商工会の青年部の皆さんの活動や農業後継者クラブの皆さんとか、地域じゃないと思いますけれども、それぞれの職種の中でやっぱり若い世代の皆さんの活動が盛り上げて下さっているように非常に思いますし、他の地区の青年部の皆さんも見習ってほしい所も非常に多いと思うので、今おっしゃったことはその通りだと思います。

《参加者Kさん》

金時エンジンの匂が2、3ヶ月しかないので重視することはもちろんだけでも、真備町でタケノコの真空パックをやって売っているの、エンジンも真空パックにできないかと気になっているんです。そしたら金時エンジンが一年中あるんです。

《市長》

取れる時期は寒い時期ですよ。

ニンジンの真空パックできるんでしょうか。茹でてからの真空パックですね。

《参加者Kさん》

タケノコもやっている所以ニンジンもできないことはないと思っています。

《市長》

全国でニンジンの真空パックがないのはなぜなのでしょう。

《参加者Kさん》

柔らかくなり過ぎるから。

《市長》

普通のニンジンだったら割と取れるから真空パックにしなくてもいいですけど、金時ニンジンは取れる時期が限られているので、真空パックにできたら正月料理の金時ニンジンを食べたいと思う人は確かに全国にいらっしゃるかも知れません。

《参加者Kさん》

それから私も含めて高齢者が、冬寒くなった時には閉じこもりになって殆ど出てこない。こういう人達の公民館でなくて地区ごとに公会堂があるので、そういう所に行って月に一、二回でも喋りながらストレッチ運動するとか高齢者を集めた暖かい所で運動するのもいいんじゃないかというのが私の日々の思いなんです。

もう一つは船穂じゃないんですが、「なかよし作品展」を市長さん知っておられますか。障がい者子どもたちの。それが市立美術館で一週間だけとなっているんですけども、普通の子どもたちと一緒に二週間さしてもらいたいというお願いなんですけど。

《市長》

障がいのある子どもさんに限って一週間になっているんですか。

《参加者Kさん》

普通の子は二週間あるそうです。時々願いを出しているんですけど、市長さんからは返事がないという。「お母さん言っというて」ということで気にかけてくれたらありがたいと。

《市長》

多分障がいのある子どもさんとなない子どもさんで日数を変えているわけじゃなくて多分作品の数とかのような気もするんですけど、ちょっとよく見てみます。

《参加者Kさん》

もう一つ、定年退職された元気のある人方が一杯いるんですが、得意な分野を一つ二つ必ず持っていると思うんです。そういうのを活かして一週間か一月に一回とか好きなもの同士が集まって何か出来ないかというも思っています。

《市長》

私もそう思います。

確かに金時ニンジンの真空パックの研究も必要だと思います。私は金時ニンジンジュースを今度のイトーヨーカ堂でぜひ扱ってほしいと思っています。全国から来た人が初めて飲んだらびっくりすると思うんです。多分ジューススタンドみたいなのがショッピングセンターとかに入るんじゃないかと思うので、そういう所で金時ニンジンジュースと玉島の桃のジュースとちょっと高いですがマスカットのジュースを。金時ニンジンの真空パックは公社に言ってみます。

閉じこもりにならないようにというのは本当に大事だと思っていて、公民館の担当者にはこれからやっぱり長寿社会になって来ますので、退職された方や年配の方がもちろん絵や写真等いろんな趣味をお持ちで公民館の講座があるんですけども、なるべく健康づくりのようなものを新しく変えていく部分があれば、そういう所も増やしてほしいと言っています。年代の変遷と共にある程度内容についても健康福祉のこともやっぱり重要じゃないかと思っております。

なかよし展のことはよく聞いてみたいと思います。

《参加者Cさん》

大きく3点お話させていただきます。

まず1点は、私は教育という観点から関連付けてお話させていただこうと思います。やはり人生の大ベテランの方、中堅の方、人生の新人という大きい位置付けで、人生の新人に当たる幼稚園・保育園段階、或いは小学校の学齢期の子どもたちにぜひ経験豊富な方のマンパワーを還元する取り組みを行っていただきたい。市教員の方がどう制度設計をしているのか分かりませんが。私が以前勤務していた岡山の方の実例で、各学校で「ボランティアティーチャー」を登録制にしておりました。生け花が得意な方、調理が得意な方などを先生にして、授業の時に地域の方に一緒に入ってやっていただくとか、課外になり教育課程には当てはまらないけれども地域の方のノウハウ等を学校現場で活かしていただきたい。ノウハウだけではなくて、その地域の歴史、文化等の伝承も講師の方をお願いして、資料はその方が持っておられるのでプレゼンまでは本人が言いたいことを言い、私がパワーポイントで資料を作ってその方にお話をさせていただいたという取り組みをしたこともあります。いろんな方法はあると思うんですけど、地域の方を学校現場にぜひ派遣していただきたいということです。

もう1点はICTに関連する部分です。市の教育委員会に問い合わせをしたら主管はライフパークの中にある情報学習センターということで問い合わせをしたら倉敷の方はかなりインフラ的には進んでいるという話がありましたので、後はそれを十分活用できるマンパワーがどれだけアップできるかという教職員の力量のアップの部分になってくると思います。特に私がお話したいのは、東京都ですでに進んでいる発達に遅れのある特別支援学校や特別支援学級に導入されているデイジー教科書。正式に文科省の学習指導要領を準拠した教科書ではないけれども、非常に有効なツールであるということで、東京都の方ではどんどん導入されて、電子情報ボードをセットで活用が進んでいるのが東京都の実態です。そういう形の方面もぜひお願いできればと思います。

2点目は国の政策になるかと思うんですけど、お米の消費に関することです。近隣の農

家の方から聞くと、お米を米粉にしたいけれども米粉にする機械が高い。機械、インフラがないから米粉が普及しないんだと。これをどうするかは市町村か県か国か分からないけど、米粉にする所さえクリアすれば米粉パン等いろんなものを作るのは簡単だと。お米を米粉にできない所に一番ネックがあるという話だったので、市レベルか県レベルなのか分かりませんが、問題提起をぜひ市長の方から当該部局にお願いをしたいということです。

3点目ですけど、私自身が精神障がい者で、私が所属しているボランティアのサークルの方からなかなか手伝ってくれる方がいないので、ボランティアをして下さる方を増やしていただきたい。またそういう活動しているというアナウンスもしっかりしていただきたい。先日ラジオで「ボランティア」とは、「奉仕をするものではなくて、志願して自ら望んでそれに取り組むものだ」というのが本来の意味であるという話もありましたので、ぜひ志願者が出てくるような人材を育成する取り組みを市の行政としてしていただきたい。

さっきのお話で、ニューヨークのセントラルパークで屋外コンサートがありますよね。入場無料、高いものから安いものいっぱいありますけど、ああいう形のもがこの中でセントラルパークほど大々的にはできないにしても、場所を提供する場所代だけでできるサマーコンサートの期間みたいなことを設定すればいろんなアーティストの方がそこに集まる、交流する。またそこから新しい文化が発信できるような拠点にも成りうるのかと。せっかく新しいものができるので期待も持っています。

《市長》

学校でボランティアの方、地域の方にもっと関わっていただきたいというのは、ずっと仕事をして来られた方が急に定年後に地域にと言ってもどう関わればいいのか方法が分からないというお声も結構伺いますので、そういう皆さんと地域と学校を繋げるようなことに市は力を入れないといけないと思っております。学校の方にもそういう観点でいろいろ地域の方が参加していただきやすい仕組みを、まだ市内で何校かモデル校でこれまでやってくらいくですけど、もっと23年度から増やしていきたいと思っております。

I Tのことや精神障がいの方のボランティア、一番最初にA先生が言われましたけど、やっぱり倉敷市内は中央病院を始めとする病院が身体の方の病気の面で非常に進んでおりましたので、逆に心の面とか身体的なものでない障がいの面の所が少し取り組みが弱い気がしているので、しっかりやらないといけないと思っております。

米粉にする機械のお話はすみません。船穂町だったら農業のことが一番にいつも頭に來てしまうんですけども、もっと農業の発展に取り組みたいともちろん市としても思っております。倉敷市には農業公社はもちろん一個しかなく、船穂と合併してから農業公社が倉敷市の分になってきたので、もっと農業の所に力を入れないといけないととにかく思っています。農業関係の方、もっとPRの面とか何かありましたらどうでしょうか。

《参加者Lさん》

先ほどのペレットの件、船穂町時代の販売先をもう一度洗い直すのを一番最初に手掛けられたらいいと思います。その頃は意外とたくさんの方に買っていて、市長さんが言われた今色んな所ででき始めているのは事実なんですけど、船穂のペレットは使われている方の中では凄く認められている商品だと思いますので、船穂町時代に買っていた所を見ているとどうもフォローができてなかったんじゃないかと僕自身は感じています。

前は時々近所に来たら「どうでしたか」と聞いていただいていたけど、それが全然なくなったとも聞いたので、買ってくれる人が減ったんじゃないかとは一つ思っています。

もう一つは僕、農業しながら商工会の会員に入らせていただいているんですが、国が六次産業化ですよ。商工と農業との連携、農業でできたものを加工して商売する。農業の後継者の方たち、ブドウもそうですし、今さっき真空パックという話も出ていましたけど金時ニンジン。今船穂のワインがありますけど、それにもう一つ何か農業を始めたい人が取り組めるような農業の産品を農協さんと普及所に開発していただければ船穂地区の農業に今一つプラスアルファができるんじゃないかとは思っています。

《市長》

農商工連携の新しい商品の開発ですね。

《参加者Lさん》

加工品じゃなくても、今山手の辺でもサンロードでも生産者の方が直売して、それに派生しているいろんなものが、総社でも芋を加工して売るとか。売る拠点があれば出せる、出してみようかというアイデアが出てくるんじゃないかと思えます。

《市長》

ちょっと関連もするんですけど、私は福田のショウガは高知のショウガよりもよっぽど凄いなと思うんです。色もいいんですけど、大ぶりだし味もいいと思うんです。この前銀座に行った時にショウガは持っていけなかったんですけど、ショウガの葉っぱからできたお茶を持って行ったんです。それも農商工連携で作って下さったものだったんですけど、ちょうど東京も冬だったので呼び名も「しょうが葉茶」だったんですけど、東京で今「ジンジャー効果」と言っていて、ショウガが随分流行っているということで、ショウガというだけで随分人が寄って来られたんです。だから何かそういうものができたらいいなと思っていて、もうちょっと農業公社に頑張ってもらわないといけないと思いましたけど。

《参加者Lさん》

もう一つ、民生委員もやらせてもらっていて、その中で認知症の方が家に帰れなくなったり迷われて、探す時にどうしても今警察だけに頼るような状態だと思うんです。大牟田の福祉課長さんのお話を聞いたんですけど、各地区の公民館や町内会長のルートとか民生委員さんとかに、倉敷市（教育委員会）の「今小学校に変質者が出た」とかメールが流れるものを利用して、「どういう方が行方不明になっている」とメールを流していただいて皆さんが気を付けて見る。そうすると学校に使っているだけのシステムが全体の教育・福祉とか全部のシステムと一緒に使えるようなものができればというのが一つ。大牟田ではそこまでは行ってないんですけど、「大捜査会」といって、認知症の本人じゃなくてふりをした人が何人か徘徊して、皆さんの協力で見つける行事をやっているお話を聞いたんです。そういうのが倉敷市全体でも特にお年寄りの方たちこれから大変になって来ると思えますので、何かそんなシステムができたらと思いました。

《参加者Mさん》

船穂小学校の職員のMといいます。私は船穂小学校で続いて欲しいと思っていることがいくつかあります。まず一つはスイートピーです。入学式には必ず一年生に後継者クラブの方が配って下さっています。昨日は学区の方がたくさんスイートピーを作っているということで持って来て下さって、すべてのクラスに綺麗な色とりどりのスイートピーが今飾られています。

それから年1回は給食にマスカットが出ます。これも農業後継者クラブの方が用意して下さい、船穂地区ではこんな美味しいマスカットを作っているというのを全員の子どもたちに味わってもらっています。ぬいぐるみを着て「マスカットこうやって食べたらおいしいですよ」という食べ方を。

もう一つ、環境に気を付ける子どもを育てたいという地域の方の願いで、プール掃除を塩素を使って消毒・殺菌するのは止めて、EM活性液を入れてプール掃除をしています。作り方を地域の方が来て教えて下さって環境に大変いいということをして下さっています。全てが倉敷市立船穂小学校ですけど、お金は全然払っていないので全て善意でして下さい。これはずっと船穂に続いて欲しいので、船穂小学校だけに予算というわけにはいかないかも知れないですけど、何か考えていただくとこのまま地域力が続いていくと思います。大変船穂の皆さんにはお世話になっています。

《市長》

給食でマスカットとはびっくりしました。今年も出ましたか。時期は夏ですね。

《参加者Nさん》

先ほどのお年寄りの集会所とか、毎月一回船穂で8箇所、各地区で決めた曜日に集まる「ふれあいサロン」があります。どうか利用して下さい。

《市長》

ご紹介頂きましてありがとうございます。また公民館の講座等の方もさっき申したような所もできればと思います。

《参加者Eさん》

私はヤマザキのパン屋で仕事をしていますんですけど、以前瀬戸ジャイアンツができた時に種無しの「マスカット大福」を作ったことがあるんです。会社にバーコードを取ってもらって結構ややこしい形でいくつか何ヶ月か作ったんですが、結局販路が難しいということで自然消滅してしまいました。さっき市長さんが言われて農業公社で先ほど言われたようにニンジンの真空化をしたり、組織で相談に行く所が船穂町にはないんじゃないかな。支所の産業課に行って「こんなものを作りたいんだけど」と、そこから相談に乗って、支援して下さいるルート作りが一番ではないでしょうか。市長さんにお話を聞いていただいてまた一年先ということではお話しだけで終わってしまう気がしますので。失敗した例から言うとやっぱり販路が一番なので、農業公社の方に窓口を作って下さる事が一番大事ではないでしょうか。

《市長》

農業公社やJ Aさんとも協力して行かないといけないと。

《参加者 E さん》

「そこに行くのと相談に乗って下さいます」というお答えをいただければ一番嬉しいと、これから先。よろしくお願いします。

《参加者 O さん》

船穂小学校でP T A役員を務めております O と言います。小学校に対する O B の方の指導や教えなんですけど、船穂小学校では昨年度までは「いきいき子ども支援の会」を、今年度になりまして「放課後子ども教室」をやらせてもらっています。放課後の空き時間や土日祝日の休みを利用して O B の方にパンやケーキ作り、フラワーアレンジメント、夏にはキャンプ、年末にはお飾り作り、ニュースポーツ等いろいろ船穂小学校区ではやらせてもらっています。先ほどの囲碁の方もよろしければ子どもたちに教えていただければ。

《市長》

私からもぜひお願いします。

《参加者 O さん》

少子化のことで市長に質問なんですけど、船穂町には2つ、船穂小学校と柳井原小学校がありますけど、年々児童数が減っております。「子育てするなら倉敷で」というキャッチフレーズがありますけど、今子育て支援課でいろいろやられていますけど、何か新たな対策でもしないと倉敷市としても出生率も横ばいでありませうし。

《市長》

倉敷市は人口は一応増えています。もちろんどんどん増えているわけじゃないんです。ただ対策は必要だと思います。

《参加者 O さん》

何かその対策をお考えでしたらよろしくお願いします。ちなみに私4人子どもがいます。

《市長》

子育てのことには力を入れたいともちろん思っています、子どもさんのことにP T Aの皆さんとかからお話を伺って、なるべく子ども関係の施策については前進したいと思って、例えば去年末に子どもさんのヒブワクチンや子宮頸がんのワクチンとか何種類かを、全国でも一番早く導入したんです。それとか医療費の助成についても拡大の検討等もしているんですけど、それだけじゃなくてやっぱり大きく言えば「住みやすいまち」を作るのが大事だと思っています。こうすれば子どもさんが増えるというのもなかなか難しいんですけど、全般的に船穂町に住んで良かったと若い世代の皆さんが思ってくれて、もっと何人も増えていくようになればいいと思うのですが、特効薬みたいなのはなかなかないとは思っているんです。私もできれば頑張りたいと思うのですが、順番がありますのでなかなか一挙にはいかないんですが。倉敷市、総社、岡山、浅口、岡山、どっちに住もうかとい

う時に倉敷市にやっぱり住んでもらいたいです。とにかく住んで良かった、住みやすいと思ってもらえる施策とか、子どもも勉強も学校もいいけど野山や田んぼ等で皆さんといろんな活動もできる、そういう良い地区だということを皆で高めていきたい。漠然とした答えで恐縮ですけれども、いつも思っています。そのためには「いきいき子ども支援の会」(及び「放課後子ども教室」)で子どもたちがお父さん、おじいちゃん、おばあちゃんとかを皆見て育っているので、その頃からここにお父さんたちも住んでいて良いから、例えば大学とかで他の所に行っても自分はまた帰って来てここに住みたいと思ってもらえるような素地を小さい時からまちとして作っていききたいといつも思っています。

ちょっと時間が過ぎまして大変遅くなりまして、恐縮でございますが、皆さんからいただきました意見をいろんな面で市政の方に活かしていきたいと思っておりますし、それぞれ地区で皆さんも頑張ってください、ぜひ船穂地区、船穂地区を始めとして倉敷市が良いまちになっていくようにぜひともご協力賜りたいと思います。今日はどうもありがとうございました。